

研究の全体構想

生徒の実態

○小集団での協働学習では、仲間と協力して課題解決を目指したり、進んで意見を出し合い学びを深めたりすることができる。

●学力の2極化が顕著で、全体で協働追究する場面で、意見をつなぎ学びを深め合う姿が十分に見られない。

【学校の教育目標】

自ら学び
逞しく生きる
心豊かな生徒

【めざす生徒像】

自立・共生する生徒

自ら課題を見出し、教科の見方・考え方を働かせながら課題を解決し、協働学習を通して、学びを深める生徒

恵那市の教科指導の重点

主体的な学びを通じて、確かな学力を育成する。

- ・児童生徒の実態を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
- ・ICTを有効に活用し、学習効果を高める授業及び活動を展開する。

【研究仮説】

教科の見方・考え方を働かせる姿の具体を描いて単元および単位時間の授業を構想する。その上で、それを実現するための個に応じた指導を充実し、学びが深まるような協働学習を仕組みれば、教科を学ぶよさを一人一人の生徒が実感し、主体的に学ぶ生徒を育成することができる。

【研究主題】

主体的に学ぶ生徒の育成

～教科を学ぶよさを一人一人が実感できる授業を目指して～

【研究内容】

1. 教科の見方・考え方を明確にした単元の構想

教科の見方・考え方を働かせる姿の具体を描き、その姿を生み出せるように、単元および各単位時間の授業を構想する。

2. 個に応じた指導の在り方（コーチングの工夫）

導入・個人追究・小集団交流・全体交流、それぞれの学習過程で、教科の見方・考え方を働かせるための個に応じた指導の在り方を明らかにする。

3. 深い学びを生み出す協働学習の仕組み

学びが深まる協働学習の様相を指導案や板書計画で具体的に描き、それを実現するための追究過程を仕組む。

【ICTの活用】

教科の見方・考え方を働かせること、協働学習で効果的に考えを伝え合うことを促すようなICTの活用方法を、教科の特性に合わせて吟味し、実践する。

全校での土台作り

- (1) 違いを認めて協力し合える学級づくり
- (2) 思いや考えを語る場の位置付け
- (3) 相手を意識した話し方・学びを深める聞き方の指導
- (4) 個に応じた家庭学習計画の継続的な指導
- (5) Qubenaを活用した知識・技能の定着